平成 24 年 7 月

全国青色申告会総連合青年部
〒101-0062　東京都千代田区神田駿河台 2-9
TEL：03-3294-2301　FAX：03-3233-0154
http://www.bluereturna.jp/seinenbu/

TEN-UP NEWS
No.74

全国青色申告会青年部 創立 30 周年記念式典開催

新たなる思いを込めた宣言

平成 24 年 6 月 21 日、全国青色申告会総連合青年部(以下、「全青色青年部」)の創立 30 周年記念式典が神奈川県にあるホテル・メルパルク横浜にて挙行された。東日本大震災の影響により一年間の延期を余儀なくされたが、全国から多くの青年部役員・部員が出席し、盛大な式典となった。

来賓として国税庁課税部個人課税課長・江國清志氏をはじめ、国税庁課税部個人課税課指導係長・間瀬利雄氏、元日本経済新聞社顧問・梅田重秋氏、小嶋三千男・全青色会長、さらに開催地元を代表され名取勲・神奈川県連副会長、山前生代・全青色女性部長、山本幸治・全青色専務理事、また歴代の全青色青年部長をお迎えした。

表彰状・感謝状の贈呈式では、全国各地の青年部役員等に表彰状(29 名)と感謝状(102 名)が贈られた。また、TEN-UP ACTION 2011 表彰式では、部員数10%UPを達成した3会(㈳神奈川会、茂原会、松山会)と新たに青年部が設立された 1 会(香取会)が表彰された。

式典の最後には、創立 30 周年の記念すべき時を迎え、新たなる思いを込めた宣言が朗読され、盛大な拍手をもって採択された。

宣　　言

青色申告運動の推進と自己研鑽の理想を掲げ、社会の発展に貢献すべく活動をつづけてきた全青色青年部は、創立３０年という節目をむかえた。自らの努力によって研鑽をすすめ、税の民主化と社会の公平を求めて世直し運動に取り組んできた。創立時に掲げた理想のもと、時代の大きな変化のなかで、優れた社会人・経営者・リーダーとなることを目指し、ＴＥＮ－ＵＰ運動を力強く展開してきた。

国・地方ともに、さまざまな課題を抱え、長きにわたり停滞がつづいている。小規模事業者が活力を失い、衰退する各地において、これからの時代の中心を担う青年の情熱と行動が真に求められている。

今こそ、われわれ青年部一人ひとりが創業者精神、起業家精神に則り、事業の再建、地域の再生から新しい時代の礎を築きあげていく。青色申告会の原点に立ち返り、青年部活動をとおして青色申告運動に邁進し、青年部組織の活性化から青色申告会の発展に大きく貢献する。

全国の青色申告会青年部が一丸となって、難局に立ち向かっていく。

以上、宣言する。

平成２４年６月２１日
全国青色申告会総連合青年部

※本式典の様子は、全青色青年部創立 30 周年記念誌に掲載予定しています。

創　立　30 周　年　記　念　講　演　会

第一部：東日本大震災から何を学ぶか

【演題】東日本大震災から何を学ぶか
【講師】日本経済新聞社　前仙台支局長　　橘　高　　聡　殿

記念講演会・第一部の講師にお招きした橘高 聡氏は、東日本大震災の発生当時、日本経済新聞社 仙台支局長として現場の指揮をとっており、今回、「東日本大震災から何を学ぶか」をテーマに講演をいただいた。

講演では、仙台支局内の状況や被災地の現場、国と地方行政の動き、風評被害の実情、東北での原発の明暗、復興マネーの行方、地域再生への取り組みなど様々な内容について、熱く語られた。新聞記者の目をとおした貴重な経験談は、現実的で生々しく、これからの前向きな活動事例も紹介され、会場からは大きな反響があがった。

講演後、安田部長から御礼の言葉と合わせて、「震災を経験した我々は、個人としてできること、青年部としてできることを真剣に考えたと思う。今回の講演を心に留め、青年部員一人ひとりができることを続けていきたい」という挨拶があった。

橘高氏に盛大な拍手が送られ、第一部が終了した。

※本講演の要旨ついては、機関誌「BLUE RETURN」9月号に掲載予定です。
内容全文は、機関誌ホームページに掲載(9月頃)を予定しています。
URL：http://www.zenaoirobr.jp　(ログインパスワード：br2012)

第二部：青色申告会青年部の飛躍にむけて

【演題】青色申告会青年部の飛躍にむけて
【講師】(公社)板橋青色申告会　会　長　　中　原　賢　司　殿
全国青色申告会総連合　会　長　　小　嶋　三千男　殿
専務理事　　山　本　幸　治　殿

記念講演会・第二部では、「青色申告会青年部の飛躍にむけて」をテーマに講演がおこなわれた。全青色青年部の初代部長である(公社)板橋会の中原会長、ならびに全青色の小嶋会長・山本専務理事に青年部草創期のお話を交えて、これからの青年部活動に大変参考となるご意見をいただいた。以下、講演の要旨を掲載します(文責記者)。

＜山本専務理事＞

全青色青年部創立 30 周年を機にさらなる発展にむけて、初代部長の中原さんに初代部長として何かお役に立つような話をしていただければと思います。その前に、本日の資料の中で､昭和 47 年に全青色が日本経済新聞に出した一面広告のコピーがあります。当時の青色申告者は 190 万人おり、事業主報酬制度を要求した意見広告です。当時、日本の新聞には意見広告というものは、ほとんどありませんでした。全青色の画期的な広告を日本経済新聞に掲載していただきました。主税局長も経験され先般お亡くなりになられた塩崎潤先生は、この意見広告を見て「勝負あった」とおっしゃられました。当時の大蔵省は事業主報酬制度に絶対反対という立場でしたが、全青色として絶対に実現したいという思いがあり、昭和 47 年 9 月 11 日の朝刊にこれが掲載されました。そのときに流れが大きく変わりました。

私は、この一ヵ月前に、アメリカでは正当な意見広告であればいつでも掲載されるということを知りました。帰国後、本日ご出席いただいている日本経済新聞社の梅田さんをはじめ、当時の編集局長や広告局長のご努力により、これが実現しました。梅田さんがいなければ、この広告は掲載されませんでした。梅田さんは、昨年、日本経済新聞社の顧問を退職されましたが､私どもとは仕事で 40 年近い年月をともにしてきました。本日の講師もご紹介いただいております。梅田さん、本日はご出席いただきまして、本当にありがとうございました。あらためて、中原さん、初代部長として今感じる思いをお話しください。

(公社)板橋青色申告会・中原会長

＜中原会長＞

皆さま､創立 30 周年おめでとうございます。30 年前といいますと、私も皆さまと同じくらいの歳でした。月日が経つのは早いと感じます。私は高校卒業後、19 歳の時に父親から申告をするよういわれ、青色申告会に飛び込みました。一年目は何もできていない資料を持っていき、青色申告会で断られましたが、翌年にもう一度うかがい、決算をやっていただくようになりました。板橋会の理事となり、会員の集金や配本をするようにいわれ、40～50 名もの会員を訪問しながら大変な思いをしました｡昭和 48 年に青年部を創るという話が出ました｡親会が創立 30 周年に向けて青色申告会の後継者を育てるので、各会でも青年部を創ってくださいという呼びかけです。それに応えたのが当時の板橋会です。私のところにも話がきましたので「青年部の趣旨は理解できるが、仕事が忙しいから」とお断りしましたが、都合の良い時だけで結構ということだったので入部の申し込みをしました。ところが、創立の 2,3 日前に職員が私の所へ来て青年部長就任依頼の話がありました。当初の話と違いましたが、時間もないということで、部長就任を了承し、部長挨拶をしてとりあえず板橋会の青年部が立ち上がったのです。

2年後の昭和50年12月には、東青連の青年部が立ち上がりました。それからは何としてでも全国の青年部を立ち上げなければならないということで、山本専務などにご努力をいただき、昭和55年10月に全青色青年部が創部されました。嫌々ながら板橋会の青年部長に就任し、東京の部長をやり、全国の部長をやる。考えてみるとどこか少しおかしな話ですが、当時の皆さまの使命感みたいなものに共鳴したのだろうなと思います。

青年部活動についてですが、昭和56年に親会が小さな政府を求め、大型間接税に反対する運動をしていました。青年部はその運動に一体となって取り組むということで、行財政改革推進要望大会をおこないました。東京商工会議所のホールを借り、定員500名ぐらいのところに700名以上の人が集まり、立ち見でいっぱいになるくらいでした。そこでは「行財政改革を進める」、「小さい政府をつくる」、さらに「消費税など新しい大型間接税を入れない」、「そういう政府をつくっていかなくては駄目だ、そういう国づくりをしていかなければ駄目だ」ということを、声を大にしていいました。資料にありますが、当時、行政管理庁の長官でありました中曽根康弘先生に自民党代表としてお越しいただいて、ご意見を述べていかれました。大変忘れがたい思いです。また、中曽根先生が総理大臣になる少し前のことでしたから、大変盛り上がりまして、周りの皆さまから「中曽根さん頑張れよ」というような声があがって、大変感激して帰られました。何度も何度も手を挙げて、頭を下げて帰られたというのが非常に印象に残っています。その中で、ご講演を頂戴し、各政党のご意見を全て伺い、宣言を採択しました。また終わった後に国会への請願、あるいは陳情等の運動を展開しました。青年部は、親会の先陣を切って活動ができたのだろうと思います。また、翌年には行財政改革推進フォーラムで、ホンダ自動車の本田宗一郎先生がお越しになり、ご講演を頂戴し、この運動を盛り上げていただきました。

全国の青年部といっても、実際に県連で立ち上がっているところは、少なかったため、私たちで役にたったか分かりませんが、四国の愛媛や高知、東海の三重や静岡、あるいは福島や北海道など、各地で青年部の役員会を開くことをしました。各地域で活性化を図ろうという運動をしてきました。昭和62年だと思いますが、皆さまもいまだに真剣に取り組まれているTEN-UP運動を提唱し、われわれ青年部自身の質を高めよう、自分の事業の質を高めよう、そして全国の青年部の質を高めていこうという運動でした。皆さまがこうして長い間引き続いていただいているということは、きっと皆さま方に成果が出ているのだろうと思います。

＜小嶋会長＞

青色申告会の運営については山本専務理事にお任せし、仕事のことで一つだけお話ししたいと思います。私は青色申告会の役員を引き受け、仕事の時間がとれないという時に、従業員に仕入れを全て任せて事業を運営しました。以前は仕入れの内容を私と従業員の半々くらいでおこなっていましたが、従業員は私が仕入れたものが売れてもあまりうれしがりませんでした。自分が仕入れたものが売れると本当にうれしいと、そういう状況を見ました。そこで、後の仕入れを全て任せることにしました。やはり、給料を上げるよりも仕事を任せた方がやる気が出ているなと感じます。現在、私の事業は 100 万世帯くらいを商圏として、1 週間に 2 回 10 万世帯にチラシを順番に入れています。このチラシも従業員に全て任せています。値段の基本的な掛け率は決めてありますが、その中で競争など様々な面で責任を持って値下げをしても良いとの方針のもとで販売をするようになり、事業が大きくなっていきました。ここ 30 年ぐらい全て従業員に任せております。これが、私の事業が大きく成長した要因であると思っています。

＜山本専務理事＞

小嶋会長の経営の話ですが、会長は農家のご出身でした。青色申告会に入って勉強をされて、今おそらく、園芸、ペット販売など、奥様と二人で始められた事業が規模の上では日本一ではないかと思います。従業員も 60 数名。そして今のお話しは、従業員が自分で仕入れて売ると一生懸命売ってくれる。小嶋

全国青色申告会総連合・小嶋会長

会長が仕入れてくるとあまり一生懸命売ってくれない。ならば、従業員に任せようという経営をしておられます。そして、社長はご子息のお嫁さんに任せ、どんどん仕事を移管している。ご子息は役員の一員ではありますが、一人の社員として働いておられる。そのような経営で、大変合理的な商売をされていると思います。会長に「どのくらい儲かったのですか？」と聞いても「まぁね」で終わってしまう。そこで「じゃあ、1 つだけ教えてください。いつも成功者の方に聞くのですが、いつごろ一番儲かりましたか？」と尋ねました。会長は「平成 7 年ごろが一番儲かった」とおっしゃられました。皆さまはいかがでしょう。

会長は大変合理的に商売をされて、100 万という世帯数を商圏にしているといわれました。会長が商売を始めてから今のお店の周辺がどんどん拡大していっているそうです。人が大勢住むようになり、となりの県からも買い物にきてくださっているそうです。会長のご心労は、会長の店の前の道路がいつも渋滞することです。会長は一人から事業を始めています。大変なご努力をされた。会長は嫌がったのですが、ぜひ本日の講師にとお願いしました。もし機会があれば、どうぞ会長のお店にいかれて、お店を見学してみてください。

＜中原会長＞

今、板橋会でも、青年部の部員が増えず、メンバーを見ても変わっておりません。そういう傾向は､各会にあるのだろうと思います。私も元青年部の人たちの家を回りながら、ご子息を青年部に入れてほしいとお願いにあがりましたが、なかなか効果が出ません。青色運動の中で何かをしてもらう喜びというものがあります｡「自分の申告書が書けない」､「決算書もできない」､「それをやっていただけてうれしい」ということがあります。それと逆にしてあげた喜びというものもあります。すなわち、青色コーナーなどをきっかけに入会する。会に入って一生懸命やっているうちに運営側に回る。そしてその喜びを感じてもらう。そういう会員を増やすということは非常に手堅い手法です。ぜひ、研究してもらいたいと思います。

それと同時に社会貢献運動を考えてもらいたい。特に、租税教育に取り組んでいる納税貯蓄組合では、中学生を対象に「税について作文」をやっておられます。国税庁では､「税に関する高校生の作文」を取りまとめて非常に効果的なことをしているそうです｡しかし、これは役所がやることではないと思います。できれば全青色青年部が引き受けていただきたいと思います。国税庁ですから簡単にはいきませんが、例えば法人会の青年部と一体になってお引き受けするなど、何か方法もあるのではないでしょうか。思っていることを述べさせていただいていたわけですが、何か一つヒントになればという思いがします。これからも皆さまのご健闘をお祈り申し上げます。

全国青色申告会総連合・山本専務理事

＜山本専務理事＞

時間も経過しておりますが、何かお役に立てればと、小嶋会長の話、そして長い間一緒にやっておりました初代部長の中原さんにお話しをいただきました。今のままでは日本は普通の国以下になってしまうのではないかと思います。やはり、どこかで国の政策を変えなければ、駄目な国になってしまうのではないかと、そんな危機感を持っております。皆さまの役に立てるようないい社会をつくる、少しでもよくしていきたい、そんな思いで取り組んでおりますことをご報告申し上げて、ぜひ、何か皆さま方の心に留めて、考えていただきたいなと思います。これからも元気でご健闘いただきますことをお願い申し上げて終わりたいと思います。ありがとうございました。

※本講演の全文内容については、全青色青年部ホームページに掲載を予定しています。
URL：http://www.bluereturna.jp/seinenbu/